

ひとりひとり自分らしく 個性と個性が生み出す調和
ハーモニー

まちづくり推進課（内線326）

「自分らしく」生きられる社会へ

「LGBT」とは、性的マイノリティ（性的少数者）の総称の1つで、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシャル（両性愛者）、トランスジェンダー（性的違和感を持つ方）の頭文字を組み合わせた言葉です。また、「SOGI」は多様な性の構成要素を表した言葉で、どのような性の人を好きになるかという「Sexual Orientation（性的指向）」と自分の性をどのように認識しているかという「Gender Identity（性自認）」の頭文字をとった言葉です。

LGBTが性的少数者という一部の人を捉えた言葉であるのに対し、SOGIは全ての人の性の構成要素に着目した表現で、「誰もが当事者であり、個々の性のあり方が尊重されるべきである」という考え方が含まれています。顔や性格がそれぞれ違うように、性のあり方も大切な個性です。「男らしく」「女らしく」ではなく、多様な性があることを理解することが、誰もが「自分らしく」生きられる社会が実現する第一歩です。

小さな一歩が大きなアクションに
今日から始めようSDGs

政策推進課（内線514）

災害に強いまちづくりを



元日に発生した能登半島地震では、6県36市町村で13万5,000戸以上の断水が発生し、復旧が4月以降になる地域もあります。また、住家の被害は1万5,000棟以上に上り、避難生活を送る中で、トイレや入浴、洗濯などの「水」と「住まい」の確保が必要とされています。

SDGsの目標6は「安全な水とトイレを世界中に」です。全ての人々が安全な飲み水やトイレなどの衛生的な環境を確保できることが目標です。目標11の「住み続けられるまちづくりを」は、安全に住み続けられるまちや災害に強いまちを目指しています。

災害への対策には、さまざまな人の協力（パートナーシップ）が必要です。私たちがあらためて災害を考え、備えをしましょう。

----- 取り組んでみよう -----

- ・防災訓練に積極的に参加してみよう
- ・住み続けられるまちとは何か、家族と考えてみよう

ようこそ手話の世界へ 福祉課（内線217）

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



手話奉仕員養成講座（入門編）の参加者の声を紹介します。

生きやすい社会へ！

土岐商業高等学校1年 酒井 優綺花

私が手話を習ってみたいと思ったのは、母が習っていた影響と、私の右耳が悪く興味を持ったことがきっかけでした。実際に手話を習ってみると、人に自分の想いを伝えることの難しさを感じました。手話での会話は、表情や口の動きがとても大切で、手話で自分の考えが相手に伝わった時はすごく嬉しかったですし、楽しいなと思いました。

手話を学んでいく中で、聴覚障害や聴覚障害の方の生活などを知ることができ、音が聞こえない生活の大変さや、工夫して生活していることも分かり、すごいなと思いました。

たくさんの方が生きやすい社会になるように、私ももっと手話や聴覚障害について学び、理解を深めつつ、周りの方にも手話の良さを広めていきたいと思っています。

かんたん手話講座 「待ち合わせ場所はどこ？」

「待ち合わせ」



手指の背側をあとに当て、人差し指を向かい合わせる

「場所はどこ？」



指を曲げ胸の前に置く

人差し指を左右に振る